③一人一日の労賃で、養蚕農家は三九五円、普通農家は三四四円で、一五％高い。

④反当粗収入についてみると、畑作（小麦＋甘藷）の作付型を一〇〇とした場合、（裸麦＋早期陸稲＋大豆）の場合一一三（水稲＋裸麦）では一八三、これに養蚕を導入した場合は、反当上繭収量二〇貫で二六五。三〇貫で二四八。五〇貫で四一三という様に極めて有利になつてくる。

従つて、現在の畑作の水準に見合う程度の反当収繭量は一七貫程度であるから、県平均二二貫では水田と同程度の粗収入つまり、桑園一反は水田一反と同じ収益を挙げるとみる事ができる。

従つて、畑作営農改善には、現在の養蚕の姿で導入しても、経営はより有利に展開できる筈である。

☆ 目標反収三〇貫 粗収入は五万円に

現在県下で反当上繭収量三〇貫以上の桑園は全桑園四、〇五五町のうち二九三町で約七％であるが、県の平均は一九、六貫で、二〇貫を境として丁度半々に二つのグループに分かれている。処で、三〇貫以上の収量は、如何なる郡でも、どんな土壌でも品種の如何に拘らず、而も毎年実現されているのであるから、少くとも反当粗収入五万円以上という三〇貫以上の収量も決して無理な目標ではない。

☆ 有利な桑園の間作 反当一万円以上の粗収益

緑肥を除いた桑園間作の良い例をみると、緑川沿岸の高菜、鹿本地方の秋馬鈴薯、玉名の一部のラッキョウ、熊本市近郊の蔬菜等で、何れも反当一万円以上の粗収益をあげ、繭の反当収量も所属組合の平均よりも上まわつている。

而もこのほか隔畦に緑肥を作つて四〇〇貫～六〇〇貫の生草量をあげ、家畜の飼料にしたり、緑肥として地力の増進に役立たせている。

緑肥の間作は、三十一年度で、全桑園面積の約五〇％まで普及しているが、緑肥の収穫量を反当四〇〇貫としても約八〇〇万貫の生草量を生産していることになり、これを全面的に畜産に利用するとすれば、この量は乳牛二千二百頭を年間飼養できる量である。

養蚕が畜産に寄与する面はこれのみでなく、反当蚕糞蚕沙が二四〇貫もとれるから、間作緑肥と合せて考えると、桑園二反五畝あれば乳牛一頭飼養出来ることになるのである。

△……△……

県下の労組数 590
伸びる中小企業の労組結成

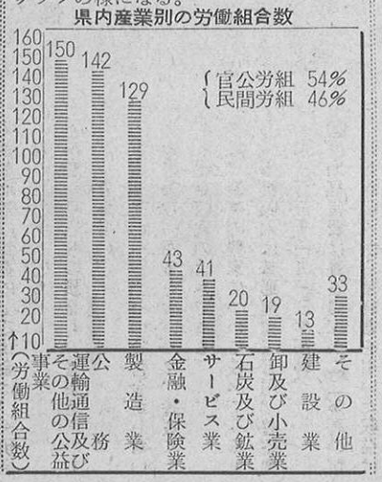
毎年6月末日を以つて県労政課が行う「労働組合基本調査」の結果がまとまつた。それによると、県下の労働組合数590、組合員数87,392名で、戦後最高の数字を示した。

このうちの約26％（229組合）は中小企業の労組が占めているが、近年の著しい傾向は、中小企業体における労働組合の結成がふえている事である。

これは県が中小企業における労働関係の健全な発達を狙つて組合結成を促している成果が挙りつゝあるものとみられている。

なお、産業別の組合数の比較は次のグラフの様になる。

県内産業別の労働組合数



…町民の親睦にも役立つ
甲佐町の道路愛護会…

交通の不便なのが道の悪いためなのはもちろん、交通事故がしきりに起るのも道路の悪いのが大きな原因。産業が発達しないのも、文化が進まないのも、道の悪いのにもとずくことが多いのは誰もが知つていること。県でも道路をよくするためには大きな努力をはらつているが、県民の皆さんがみずから立つて道をよくするために働いておられることも見落してはならない。上益城郡甲佐町の道路愛護会もまたそのよい例だ。

道路修理中の甲佐町の人々

甲佐町ではトラック一台、三輪車二台をそなえて沢田町長、松永助役、橋本建設課長などが音頭をとり、町民全部の世論と相まつて愛護会をつくつたが、今ではすつかり自主的なものになり、明るい町づくりの一つとして道をよくすることにけん命。

つい先日の秋晴れの日には下横田から上早川（かみそうがわ）にかけての県道を部落挙げて手入れを行つたが、巾三・六メートル、延長五千メートル、一戸当りにすると約十七～八メートルの受持ちになるということであつた。

若い人からかなりの老人まで、男女うちまぜた一団が、たのしそうな笑い声の中で、くわをふり、スコップをつき立てる作業は、見ていてもなごやかな風景で道がきれいになるとともに心までも洗われる感じである。道路愛護会は、一面部落親睦会の意味でも大きな役割を果たしているということだつたが、なるほどとうなづけるものがある。

MEMO

★「オヤ電灯が消えた。電球を買つてこい。」となつた時、A会社の電灯ソケットにB会社の電球ははまらない、というのだつたらどんなに不便なことだろう。すべての会社が同じ規格の品をつくればこそ、カメラのフイルムも、安全そりの刃も、自転車のタイヤも、どれだつてピッタリはまるわけだ。

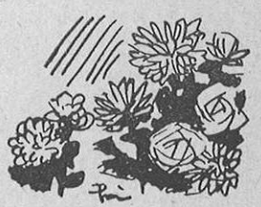
★このように、寸法や品質を統一すると使う人のがわが便利なだけでなく、造る方でも大量生産で安くてよい品が出来る。そこで目下「工業標準化振興運動」というものが、全国的にくりひろげられている。

★この趣旨にかなつた工業製品には、カットのような丸いマークがついている。我々の身近かな品物、例えば優良メーカーの鉛筆やアルマイト製品などには大ていついているから一寸御覧なさい。

★品物を買う場合、このマークのついたものを選べば、国家がその規格を保証しているのだから安心だ。

★皆がJISマークのついた品物を愛用すれば、製造者のがわでも規格品だけつくるようになつて、産業はいよ／＼盛んになり、生活も益々ゆたかになるわけ。

JIS（ジス）マーク



婦人相談所

★売春防止法が来年の四月一日から施行されることになり、現在売春を行つている人々の転向が大きな問題として話題にのぼつている。

★こうした女性の方や、転落のおそれのある人々の、色々な身の上相談に応じるため、県庁の社会課内に設けたのが「婦人相談所」。専任の相談員も四名いて既に仕事を始めているが、毎日多数の婦人の相談をうけ、それぞれ更生へのお世話をしている。

★このほかに、熊本市と八代市の福祉事務所にも二名づゝ「婦人相談員」が居てそういつた人々のこの後の身のふり方や、その家庭の事などいろ／＼親身になつて面倒をみているうえに、本人の職業補導やあつ旋などの面まで色々と細かい世話をしている。

★お困りのことや、相談されたい問題がある方は、県庁内の「婦人相談所」か福祉事務所の「婦人相談員」のところに遠慮なくおいで下さい。

★この「婦人相談所」の建物も大体本年中には熊本市内坪井町に新築されるし、また、そうした方々に生活更生や職業を身につけてもらうための保護更生施設も熊本市内に建設するよう、来年の二月完成をめざして準備中です。

狩猟解禁

★十一月一日は狩猟解禁の日。秋晴れの山野に銃声がこだまするのも十一月の爽かな風物詩である。この日から三月十五日までが狩猟期間というわけ。

★昨年度はどれ位の獲物があつたか調べてみたら、県下の狩猟者六、七七五名でナント二一九、一八四羽（匹）というからすごい。そのうち大物ではイノシシが一、六三四匹、数の多いのはキジバトの七四、一三四羽、コジュケイ三三、三八四羽など。

★然し野放しに獲つてよいというわけではなく、キジ、ヤマドリを獲つてよいのは十一月一日から来年の一月十五日まで、アナグマ、雄イタチ、狐、雄鹿、タヌキテン、ムササビ、リスは十二月十五日から来年の二月末日までの間しか獲つてはならないことになつている。

★ところで、銃には猟銃と空気銃とがあるが、猟銃は満二十才以上、空気銃は満十八才以上しか持てないので注意すること。どちらも警察署を通じて公安委員会の「銃器所持許可証」を受け、更に県の猟銃に対する「狩猟免状」、又は空気銃に対するは「狩猟登録票」を持つていなければ狩猟はできない。

★これらを受ける手続きは、最寄りの猟友会支部か県事務所に尋ねると教えてくれる。

話し合い運動

★自分達の町や村がどんな方針で、どんなやり方で町政なり村政なり行つているのか、それは自分達にどう影響しているのか……ということに、案外無関心な人が多いが、我々はもつと関心をもつてよい筈だ。

★最近県下各地で「村政座談会」や「政治討論会」或は日常生活の問題をとりあげた話し合いの会がしきりに開かれているのは、政治意識のたかまつてきた証拠でいい傾向だ。

★お互の話し合いの中から、町村ひいては県や国の政治に関心をもつということになれば、政治が生活にどう影響してくるかということを認識してくる。更に良い政治を行わせる為には良い代表を送ろう―つまり公明選挙をしなければだめだ―ということに落着く。

★県でもその意味から、県下全域に「話し合い運動」を展開して公明選挙を行おうと、鹿北村、八代市、五和町など四十八市町村を「話し合い運動モデル地区」に指定しているし、又近く政治討論会や座談会、モデル地区の体験発表会などを開くプランだ。

★何はともあれ、我々はあらゆる身近い問題について、いつも話し合いの会を開き、良い政治を行わせるために良い選挙を行いたいものだ。